

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所
所管課 薬務課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	Ⅱ-3-② ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	感染症対策	ダニ媒介性感染症の検査体制の構築と福島県におけるリスク分析	ダニ媒介性感染症の県内における潜在的リスクを明らかにし、県民に対して具体的な注意喚起を行うための情報の提供、疑われる感染症が発生した際の適切迅速な検査を可能にするため、つつが虫病をはじめとしたダニ媒介性感染症の総合的な検査体制の構築および県内のダニ媒介性感染症の浸淫状況を明らかにすることを目的とする。	1. ダニ媒介性感染症の遺伝子検査系の整備 2. リケッチアの培養法の確立とダニ媒介性感染症の血清抗体価測定法の整備 3. 過去につつが虫病抗体価検査を実施した血清および地域毎の健康者血清の抗体価測定 4. ダニ生息状況調査及び病原体保有調査	28	30	A	昨今、注目されている各種ダニ媒介性感染症について、抗体価測定及びダニの生息状況調査を実施することにより、そのリスクが明らかになるとともに、網羅的遺伝子検査法の確立と併せ、迅速かつ確かな行政対応が見込める。	福島県はツツガムシ病の患者発生数が多く、他のダニ媒介性感染症も県内、隣県、および国内で拡大が認められることから、リスクを評価し対策を講じることは、県民の健康を守るために重要である。また、研究内容が高度なバイオセーフティーレベルを必要とすることから、県の事業として行う必要性が認められる。患者の発見と適切な治療、および感染予防対策へ活かされるよう、検査法の比較検討、習得、材料調整、ダニ媒介性感染症の浸淫状態の調査等の研究計画が順調に遂行されることを期待する。(江藤)

試験研究機関名 ハイテクプラザ
所管課 産業創出課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
2	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	地域産業における3Dプリンター活用技術の開発研究	伝統工芸製造技術に3Dプリンターの特長を生かした具体的な活用方法を検討し、新商品開発および製造方法の提案を行う。	漆器における立体模様(蒔絵)、陶磁器における成型型、張り子用木型再生・製造方法等、丸物器物製造等について3Dデータや3Dプリンターを活用する製造技術・方法について検討する。	28	30	B	伝統工芸に最新技術を導入して、次世代への継承と新たな作品の開発を行っていくことに大きな意義がある。 現在は複雑形状で加工が難しい工程でも、3Dプリンターを活用することで新たな製品開発に繋がると考えられる。	3Dプリンターの活用を中小企業が多い県内で啓蒙していく活動として、評価できる。幅広い業種に対し、研修などを実施して欲しい。 伝統工芸品の形状などをデータ化して保存することに意義がある一方、最新技術で量産すると伝統工芸品の価値を下げる恐れもある。伝統的な手法とのバランスに配慮して実施するようお願いしたい。(佐藤)
3	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	地域在来作物の栄養・機能性を活かした加工技術の開発	栄養・機能性に優れる在来作物を利用した一次加工技術の開発を行うとともに、それらを利用した二次加工品のレシピを提案し、特色ある加工食品の開発を目指す。	県内の在来作物(館岩赤カブ、アザキダイコン、立川ゴボウ、阿久津ネギ等)について、栄養成分や機能性成分を比較し、在来作物がもつ栄養・機能性における優位性を明らかにする。また、ペースト化技術等の一次加工技術を開発する。	28	30	B	本県独自の加工品づくりが求められており、本研究に対するニーズは大きい。 地域に特化した少量生産高付加価値の農産加工品という目的からは併行的に地域ブランド化を考える必要があり、その根拠となる本研究の意義は大きい。	意義深い課題と存じます。ただ、「県内で栽培されている在来作物と一般的な作物について、ミネラルなどの栄養成分やポリフェノールなどの機能性成分を比較し」とのことですが、解析される成分について事前に検討する必要があると思います。館岩赤カブや立川ゴボウの各種ポリフェノールを定量される場合は、それぞれの適切な標準品を準備するようにしてください。(仲川)

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 ハイテクプラザ
 所管課 産業創出課

4	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	チャレンジふくしま。災害対応索状ロボットの開発	県内企業の要素技術を災害時の瓦礫内部調査を行う索状ロボットに応用し、課題である姿勢制御に取り組む。更に、格納容器内部調査や配管内部洗浄など、への応用を行う。	CFRPと発泡材により成形した軽量かつ高剛性な新材を当該ロボットの先端部や関節部に適応し、駆動性や安定性を高めるとともに、ロボットと瓦礫等との位置関係や接触状況等をセンシングしながら駆動するロボットを開発する。	28	30	A	本県が掲げる「ロボット関連産業の地ふくしま」と合致している。また、展示会等においても管内洗浄についての要望が多数寄せられており、索状ロボットおよび洗浄機能という技術開発は有望である。 本事業は、県内企業の参画を得て、今後の県内企業のロボット産業への参画に繋がるものと考えられる。	県内企業のもつ技術を活かすことのできるテーマと高く評価したい。具体的な計画があり、実現性は高いと思う。 災害対応を前面に出すことに反対ではないが、配管洗浄や狭隘部の管理など日常的に活躍するロボットのニーズの方が高いと思われる。災害対応に特化しすぎて一般の市場参入が遅れることのないように、運営願いたい。 新しいコンセプトの製品となるため、情報発信による市場開拓およびニーズの発掘が重要と思われる。積極的な広報と成果発表をお願いしたい。(佐藤)
5	県内企業の経営基盤、競争力・収益力の強化	新技術、新製品の開発などに関する取り組み	カメラ型センサの高度利用化技術の開発	画像処理ひずみ測定やサーモグラフィなど、カメラ型センサ技術を、将来の基盤技術とすべく、利用技術の高度化を図る。	① 画像処理ひずみ測定、② サーモグラフィによる応力測定、非破壊検査について、複数の測定を行いノウハウを蓄積するとともに、技術を開発する。	28	29	C	ロボット技術の主要要素として研究ニーズは高く、県のロボット関連産業集積の施策に合致する研究で時宜を得た研究である。 カメラ型センサ技術は、工業製品等を視覚的に測定する重要な基盤技術であり、県内企業の技術力、競争力向上のために必要な課題である。	多くの情報が同時に取得できるカメラ型センサは有望な技術である。構造物の健全性評価も重要である。 しかしながら研究計画概要からは、どのような研究により課題を解決しようとしているのか、読み取れない。ひずみが検知できるほどの熱を屋外の構造物に与える技術開発だけでも、相当なハードルがある課題と思われる。さらに得られた画像と健全性との関係を検証する必要もあり、提案の予算での実施は困難と推測する。 現在保有の技術の完成度を精査し、目標を絞って実施することが必要と考える。(佐藤)

試験研究機関名 農業総合センター(本部)
 所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
6	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な農林水産物生産技術の確立	受益者対応型中山間地域暗渠排水技術確立事業	農家が所有するトラクタに連結可能な「暗渠排水施工器」の活用や暗渠施工方法（暗渠本管及び補助暗渠の深度、配置）の改良など、農家自ら施工できる暗渠排水技術を確立する。	農家自らが、水田の汎用化を行うための、トラクタを活用した暗渠排水や補助暗渠を組み合わせた排水対策工法等を導入した水田で実証実験を行い、大豆等の湿害を低減させる技術を確立する。	28	31	A	農家が自ら施工できる暗渠排水は、優良な農業基盤を持続させるために重要である。大豆等の転作作物の収量と品質向上を図るため、この技術の導入が必要であり、研究ニーズが高く、実施すべきである。	農地管理のコスト低減に直結する技術であり、普及が進むことが期待される。(信濃)

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
7	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	競争力と個性のある県産農林水産物のブランドの確立	マツノサイセンチュウ抵抗性種苗の品質向上及び生産量増加技術の開発	「抵抗性クロマツ採種園(0.29ha H24～生産開始)」の種子生産量は本格稼働開始3カ年で、0.2～2.9kgで推移している。一方、種子の需要は大幅に増大している。そこで、採種園の種子生産量の増収技術の適応化試験を行い、確認された技術を導入する。また、さし木コンテナ育苗技術を開発する。	1. 雌雄着花特性の把握 ・種子生産に関わる採種園構成ラメートの雌雄着花特性を調査する。 2. 抵抗性家系の抵抗性評価 ・採種園の人工交配実生苗に接種試験を施し抵抗性を評価する。 3. 種子生産量増加技術の適応化試験 ・植物成長調節物質、簡易交配システムによる着花促進技術導入の適応化試験を実施する。 4. さし木コンテナ育苗の技術開発 ・さし木小苗をコンテナに植栽し、短期で確実な抵抗性苗を得る技術開発を行う。	28	32	A	公益性が高く、震災復興における喫緊の種苗需要に、確実に、迅速に対応するため、優先的に実施すべきである。	研究評価個別評価表(事前評価用)で評価されており、研究ニーズの高い重要な研究課題であると考えます。計画されている個々の試験等が順調に進むことを期待しています。(星)

試験研究(事前)評価整理表

試験研究機関名 水産試験場

所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
8	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	栽培漁業対象種の放流技術に関する研究(栽培漁業の再建に資する省力・低コスト生産技術の開発)	種苗生産経費の削減と放流効果の向上技術の開発、並びにウイルス病対策の技術の開発により種苗生産・放流事業の再開を支援する。	種苗生産の効率化と放流効果向上のための省力・低コスト化技術を開発するとともに、近年、東北海域で問題となっているウイルス病の対策技術を開発する。	28	32	A	ヒラメ・アワビ等の種苗生産・放流事業は本県沿岸漁業の復興に不可欠であり、省力・低コスト生産技術の開発、防疫体制の構築により強力に支援されるため、研究ニーズは極めて高い課題である。	種苗生産経費の削減と放流効果の向上技術の開発、並びにウイルス病対策の技術の開発により種苗生産・放流事業の再開を支援するとのことで、大変有意義な研究と存じます。「新たな省力・低コスト種苗生産技術の開発」と「ウイルス病対策技術の開発」の関係性を明確にして下さい。(仲川)

試験研究機関名 内水面水産試験場

所管課 農業振興課

No.	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	部局コメント	外部アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
9	農林水産業の再生と安全・安心な農林水産物の提供	安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上	高品質魚作出量産技術の開発	周年に亘り肉質の良いイワナの作出量産化技術を開発する。	イワナの性転換雄作出技術と倍数化処理による雌型3倍体作出技術を開発し、その作出個体の特性を評価する。	28	32	A	イワナ雌型3倍体は、肉質が良好で、養殖業者からの要望も高く、内水面養殖業の振興及び特産品として期待される魚種であるため、積極的に取り組むべき課題である。	雌型3倍体を作成することで新たな需要を掘り起こそうとする研究背景・目的は良く理解できました。新規性・進歩性および実現可能性を明確にいただければと思います。(仲川)